日本語中級レベルの教科書に見られるオノマトペ

守山　惠子

キーワード：オノマトペ、日本語中級教科書

1．はじめに

日本語教育の現場で、オノマトペはどのように扱われているのだろうか。日本語学習のどの段階で、どのようにオノマトペが導入されているのだろうか。日本語能力試験の出題基準を見ると、3、4級レベルでは、オノマトペはわずか数語である。1、2級レベルになると60語ほどが出題基準語彙として示されている。長崎大学留学生センター（以下留学生センターとする）で中級レベルの日本語のクラスを受講する学習者たちは、クラスの中で、どの程度のオノマトペを学習することになるのだろうか。本稿では、留学生センターの2006年度の日本語中級クラスで使用されている教科書にどのようなオノマトペが見られるかということと、教科書の中でどのように提示されているかを整理した。また、日本語能力試験出題基準の語彙リストの中からオノマトペを抜き出し、それらと実際に中級教科書に見られるオノマトペとを比べた。

オノマトペのうち、特に擬態語は、その語が擬態語かどうかが分かりにくいものも多く、何冊かの擬態語擬音語辞典を比べると取り上げられている語に違いがある。筆者はこれまでに「ＣＶＱＣＶリ」のオノマトペについて、日本語母語話者のオノマトペ感覚を検討したが[1)]、何冊もの擬態語擬音語辞典でオノマトペであると判断されている語であっても、一般の日本語母語話者にはオノマトペとは感じられていない語がある。特に、頻繁に使われていて、しかも、同じ語基をもつ形態の異なるオノマトペがない場合には、一般語彙として捉えられていることが多い。日本語教育の中でも、それらの語は一般語彙として扱うほうが望ましいのではないかと思われる。実際の教科書に見られるオノマトペを明らかにすることにより、「オノマトペ」をどのように学習することが、学習者の役に立つのかを考えたい。

2．中級レベルの教科書に見られるオノマトペ

留学生センターで2006年度に開講されている中級レベルのクラスのうち、本稿で検討の対象とした使用教科書は表１の通りである[2)]。

表１：使用教科書一覧

教科書番号	クラス名	使　用　教　科　書
1	準中級	『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）
2	中級Ⅰ会話	『新日本語の中級』（スリーエーネットワーク）
3	中級Ⅰ読解	『中級から学ぶ日本語』（研究社）
4	中級Ⅰ 発表・作文	『トピックによる日本語総合演習・中級前期、中級後期』 （スリーエーネットワーク）[3)]
5	中級Ⅰ聴解	『日本語会話中級Ⅰ』（TIJ 東京日本語研究所）
6	中級Ⅱ読解ａ	『日本社会探検』（スリーエーネットワーク）
7	中級Ⅱ読解ｂ	『中級から上級への日本語』（The Japan Times）
8	中級Ⅱ聴解	『日本語会話中級Ⅱ』（TIJ 東京日本語研究所）

表１に示した教科書に見られるオノマトペを表２に示す。

オノマトペの型は次のように分類した。「ぐん」のような語尾が「ん」の２拍のもの（「Ｎ（２）」とする）、「ずきん」のような語尾が「ん」の３拍のもの（「Ｎ（３）」とする）、「さっ」のような語尾が促音の２拍のもの（「Ｑ」とする）、「どきっ」のような語尾が促音の３拍のもの（「Ｑ（３）」とする）、「うっかり」のような２拍目が促音で４拍目が「り」の４拍のもの（「Ｑリ」とする）、「いらいら」のような２拍の語基を重ねた４拍の畳語（「畳語」とする）、「がらり」のような語尾が「り」で３拍のもの（「リ（３）」とする）、「パパパー」のような以上のどれにも分類されないもの（「他」とする）。教科書で使われているとおりに、ひらがなで表記されている場合はひらがなで、カタカナで表記されている場合はカタカナで表記した。同じオノマトペでも表記が違う場合には別に扱った。また、表内の数字はオノマトペの出現回数で、「４」とあれば、当該オノマトペが４回使われていることを表わす。

表２　中級教科書のオノマトペ

教科書番号		1	2	3	4	5	6	7	8
ぐん	N(2)		4						
きちん	N(3)		2					2	
ずきん	N(3)		2						
うんざり	Nリ								1
しょんぼり	Nリ								1
のんびり	Nリ		1				1		

教科書番号		1	2	3	4	5	6	7	8
かっ	Q							1	
ぎゅっ	Q		2						
ぎょっ	Q							1	1
さっ	Q		1						
サッ	Q		1				1	1	
じっ	Q		1	1					

教科書番号		1	2	3	4	5	6	7	8
すっ	Q							1	
そっ	Q			1					
ぞっ	Q							1	1
はっ	Q							1	1
パッ	Q						1		
ホッ	Q			2	2				
ほっ	Q		2	1				1	
むっ	Q							1	
ジーッ	Q(3)						1		
スーッ	Q(3)						1		
スパッ	Q(3)						1		
ダダッ	Q(3)							1	
どきっ	Q(3)							1	
パクッ	Q(3)							2	
びくっ	Q(3)							1	
ぼうっ	Q(3)							1	1
うっかり	Qり			1			1		
うっとり	Qり								2
おっとり	Qり								1
がっかり	Qり							3	
きっぱり	Qり							1	
くっきり	Qり							3	
こっそり	Qり			1					
しっかり	Qり			1				1	
すっかり	Qり		2	1	3			2	
そっくり	Qり								1
たっぷり	Qり		1				1		
どっしり	Qり						3		
ニッコリ	Qり			2					
はっきり	Qり	1	1	2	1	1	4	3	
パッタリ	Qり						1		
ばっちり	Qり					1			
びっしり	Qり						1		
ぴったり	Qり		1			1			2
ほっそり	Qり							1	
ゆっくり	Qり	1	8	5			2	3	1
ゆったり	Qり			1	1				
いらいら	畳語		1	3					
イライラ	畳語						2		
うきうき	畳語								1
おいおい	畳語				1				
かちかち	畳語							1	
がぶがぶ	畳語				1				
からから	畳語		3						
がりがり	畳語							1	
がんがん	畳語		2						

教科書番号		1	2	3	4	5	6	7	8
キョロキョロ	畳語							1	
ぎりぎり	畳語			1					
ぐうぐう	畳語		1						
くしゃくしゃ	畳語	1							
くすくす	畳語				1				
くたくた	畳語		1						
くちゃくちゃ	畳語							1	
クルクル	畳語							1	
げらげら	畳語				1				
ゴクゴク	畳語			1					
ごくごく	畳語				1			1	
ごたごた	畳語								1
ごちゃごちゃ	畳語		1						2
ごつごつ	畳語							1	
ごろごろ	畳語		4					1	
こんこん	畳語		1						
ざあざあ	畳語		2						
ざらざら	畳語							1	
しくしく	畳語				1				
ジャージャー	畳語							1	
ずきずき	畳語		2						
ずけずけ	畳語								1
すらすら	畳語				1	1			1
ぞくぞく	畳語		2						
そろそろ	畳語		7				1		
ちびちび	畳語				1				
ちゅうちゅう	畳語							1	
つやつや	畳語							1	
ツルツル	畳語							9	
つるつる	畳語							2	
てかてか	畳語							1	
どきどき	畳語		1						2
ドキドキ	畳語				1				
どさっ	畳語		1						
とんとん	畳語		1						
どんどん	畳語		4	1	1				
にこにこ	畳語		1	2	1				
ニコニコ	畳語				1				
にやにや	畳語				1				
ぬるぬる	畳語					1		1	
ねばねば	畳語							1	
のびのび	畳語				1				
ノロノロ	畳語			1					
パクパク	畳語							3	
ぱくぱく	畳語							1	
ばたばた	畳語		1						

教科書番号		1	2	3	4	5	6	7	8
はらはら	畳語								2
ばらばら	畳語			1			1		
ひそひそ	畳語				1				
ひょろひょろ	畳語							1	
ひりひり	畳語		2						
ぶうぶう	畳語				1				
ぶつぶつ	畳語				1				
ぶよぶよ	畳語							1	
ふわふわ	畳語							1	
ぺこぺこ	畳語		2			2			
べらべら	畳語		2		2				
ぺらぺら	畳語		2						
ペラペラ	畳語						1		
ぺろぺろ	畳語							1	

教科書番号		1	2	3	4	5	6	7	8
ポカポカ	畳語				1				
ぽちゃぽちゃ	畳語							2	
むかむか	畳語		2						
めそめそ	畳語				1				
もぐもぐ	畳語								1
わあわあ	畳語				1				
ワイワイ	畳語						2		
わくわく	畳語								2
ジャー	他							3	
パパパー	他						1		
がらり	り(3)		1						
すらり	り(3)							1	
パクリ	り(3)							1	

オノマトペか否かの判断は難しい場合も少なくない。たとえば、「びっくり」はオノマトペだろうか。「やっぱり」「やはり」はどうだろうか。型はオノマトペの典型的な型の１つだが、これらはオノマトペではない。その判断を、本稿では、以下の３冊の擬態語擬音語辞典によることとした。これら３冊の辞典のうち、２冊以上に収録されているものをオノマトペとした。

・『擬音語擬態語使い方辞典』第２版　阿刀田稔子・星野和子　1995　創拓社
・『擬音語・擬態語辞典』天沼寧編　1974　東京堂出版
・『擬音語・擬態語辞典』浅野鶴子編　1978　角川書店

本稿で対象とした８冊（『トピックによる日本語総合演習・中級前期、中級後期』は２冊に分かれているので、正確には９冊になる）の教科書全体で、異なり語数で130余りのオノマトペが使われていることがわかった。「げらげら」「ごくごく」「ざあざあ」などの擬音語もあるが、擬態語が多い。

すべての教科書に共通するオノマトペはなかったが、「はっきり」は７冊の、「ゆっくり」は６冊の教科書に見られた。

オノマトペ全体のなかでは、２拍の語基を重ねる畳語の数が最も多いが、表２でもこの型のオノマトペが最も多かった。次に２拍目が促音で４拍目が「り」の４拍のオノマトペが多かったが、これも全体のオノマトペと同様である。

教科書によっては、「擬態語、擬音語」などというタイトルで、オノマトペをいくつかまとめて学習できるようにしているものもある。

『新日本語の中級』は、課ごとに、学習項目という欄を設け、基本文型や表

現、縮約形、それぞれの品詞の使い方などをまとめて示しているが、課によってはこの学習項目の中に「擬態語」という項目がある。提示の仕方は、擬態語を使った短文を示す場合と、擬態語のみを示す場合があり、いずれにしても具体的な語彙が示されている。また、練習問題として、その課のテーマである場面や機能で使われることの多い擬態語を学習する課題がある。たとえば、「病状を伝える」という課では、絵と共に示された「ぺこぺこ、ずきずき、ぞくぞく、がんがん、むかむか、ひりひり、からから」の中から、ふさわしい語を選んで、短文の空欄に入れるといった問題がある。学習者は意味の関連する擬態語をいくつかまとめて学習することになる。この教科書で使われているオノマトペの表記はほとんどがひらがなだが、同じ教科書で同じ話題の中で使われている場合でも、一方がひらがな、他方はカタカナの場合もある。

『トピックによる日本語総合演習・中級前期、中級後期』には、「ことば」というタイトルの課の中に「擬音語・擬態語」というページがあり、「笑う」「泣く」「話す（言う）」「飲む」という４つの動詞ごとに、その動詞を修飾して様子を表わすオノマトペとそれに対応する絵、さらに使い方が示され、短い説明文が添えられている。（ただし、擬音語・擬態語辞典に共通して収録されている語のみをオノマトペとすると、オノマトペと判断できない語も含まれている。）たとえば、「笑う」と共に使われるオノマトペとして、「あははは、ふふふ、げらげら、くすくす、にこにこ、にやにや」を挙げて、絵や説明文でこれらのオノマトペによって示すことができる笑い方の違いを理解させようとしている。また、「～と笑う」という形で使われる「と」が必要なオノマトペの場合や、「～する」と「する動詞」の形で、「笑う」という動詞なしでも使われるオノマトペの場合は、そのことも示されている。ほとんどは畳語のオノマトペで、型による違い、つまり、「にこにこ」と「にっこり、にこり、にこっ」などとの違いは取り上げられていない。

『日本社会探検』では、１つの課に「この読み物に出てくる擬音語・擬態語をひろってみましょう。」という問題があり、オノマトペを使って短文を完成させる問題がある。ここで取り上げられているオノマトペは「びっしり、イライラ、どっしり、ワイワイ」の四つで、意味のつながりや型の統一はない。「びっしり、どっしり」はひらがなで、「イライラ、ワイワイ」はカタカナ表記である。また、「よく聞いたり、よく使われたりする擬音語・擬態語を紹介してください。」という課題もある。

『中級から上級への日本語』では、練習問題で「擬態語・擬音語」と明示して、「『食べたり飲んだりする様子』を表わす」オノマトペを列挙し、短文を作らせるようにしている。ここで提示されているオノマトペは畳語のみである。「人を描写する擬態語」の練習問題には、短文の中で使われている二つのオノマトペのうち、正しいものを選ぶ問題と、絵にふさわしいオノマトペを使って絵の説明をさせる問題がある。ここでは、「ぽちゃぽちゃ、ほっそり、すらり」などのように、どれもオノマトペによく見られる型であるが、さまざまである。

3．日本語能力試験出題基準のオノマトペ

日本語能力試験出題基準としてリストになっている語彙の中から、オノマトペを取り出し、表3にまとめた。オノマトペの判断は上記と同じように辞典を使用した。

表3　能力試験出題基準のオノマトペ

級			
2	きちんと	N（3）と	○
2	すんなり	Nリ	×
2	さっさと	Q(他)	×
2	きちっと	Q（3）と	×
2	ぐっと	Qと	×
2	さっと	Qと	○
2	ざっと	Qと	×
2	じっと	Qと	○
2	すっと	Qと	○
2	ずらっと	Q（3）と	×
2	ちらっと	Q（3）と	×
2	どっと	Qと	×
2	ひょっと	Qと	×
2	ほっと	Qと	○
2	あっさり	Qリ	×
2	うっかり	Qリ	○
2	がっかり	Qリ	○
2	がっくり	Qリ	×
2	がっしり	Qリ	×
2	がっちり	Qリ	×
2	きっかり	Qリ	×
2	ぎっしり	Qリ	×
2	きっちり	Qリ	×
2	きっぱり	Qリ	×
2	くっきり	Qリ	○
2	ぐっすり	Qリ	×
2	げっそり	Qリ	×

級			
2	こっそり	Qリ	○
2	さっぱり	Qリ	×
3	しっかり	Qリ	○
2	じっくり	Qリ	×
3	すっかり	Qリ	○
2	すっきり	Qリ	×
2	たっぷり	Qリ	○
2	にっこり	Qリ	○
2	はっきり	Qリ	○
2	ばったり	Qリ	×
2	びっしょり	Qリ	×
2	ぴったり	Qリ	○
2	めっきり	Qリ	×
4	ゆっくり・と	Qリ	○
2	いらいら	畳語	○
2	うろうろ	畳語	×
2	おどおど	畳語	×
2	ずるずる	畳語	×
3	そろそろ	畳語	○
2	だぶだぶ	畳語	×
2	ちょくちょく	畳語	×
2	どきどき	畳語	○
2	どんどん	畳語	○
2	にこにこ	畳語	○
2	のろのろ	畳語	○
2	はらはら	畳語	○
2	ぶかぶか	畳語	×

級			
2	ぶつぶつ	畳語	○
2	ふらふら	畳語	×
2	ぶらぶら	畳語	×
2	ふわふわ	畳語	○

級			
2	ぺこぺこ	畳語	○
2	ぽつぽつ	畳語	×
2	ずらり	リ（3）	×
2	ぴたり	リ（3）	×

助詞の「と」を必ず伴うオノマトペの場合は、「と」を伴った形で示されているので、それに従った。擬音語擬態語辞典では「と」を伴っていないが、一般の国語辞典では、オノマトペによっては「と」を伴って見出し語となっているものもある。

表３ではオノマトペが本稿で取り上げている中級教科書にも見られる場合には右欄に○で、そうでない場合には×で示した。

オノマトペの型を見てみると、「さっぱり」のような２拍目が促音で４拍目が「り」の「ＣＶＱＣＶリ」型の４拍のオノマトペが多い。この型のオノマトペはほとんどが擬態語である。擬音語は必要があれば、具体的な音と結びつけて学び、理解することができる。日常生活の中で具体的な音と結びついた擬音語を耳にするなかから、語彙数を増やしたり、理解を深めていくこともできるだろう。それに対して、擬態語は具体的なものやことと結びつけにくく、学習の場が必要だと思われる。また、ここにあげられている「ＣＶＱＣＶリ」型の27のオノマトペのうち、同じ語基を持つ、促音がなく「リ」で終わる３拍の「ＣＶＣＶリ」型のものと、同じ語基をもつ、畳語「ＣＶＣＶ-ＣＶＣＶ」型のものがないのは、「あっさり、がっかり、がっしり、きっかり、きっぱり、くっきり、さっぱり、しっかり、じっくり、すっきり、ゆっくり」の11語である。

「にっこり」と「にこにこ」などのような２拍の語基を共通に持つオノマトペが共に取り上げられていることはほとんどなく、語基が共通のオノマトペがある場合でも、１つだけが取り上げられていることが多い。

４．日本語中級クラスでのオノマトペ

中級レベルの教科書のオノマトペと能力試験出題基準のオノマトペを見ると、日本語クラスで学習者が身につけることが必要だと考えられているのは、擬音語よりも、擬態語のほうが多い。オノマトペは口語的な言葉で、特に、擬音語を多用すると、「適切な表現ができないためにオノマトペに頼っている」という印象を与えてしまうことがある。書き言葉で使われる場合には、カジュアルな友人に宛てた手紙や臨場感を持たせたいエッセーなどに使われると効果的だが、

フォーマルな文章、例えば専門分野の論文やレポートなど、擬音語の使用がふさわしくない場合もある。しかし、擬態語は擬音語に比べると書き言葉に使われることも多く、日本語中級段階では、学習者がオノマトペを目にすることも、耳にすることも、使いたいことも増えてくると思われる。そこで、オノマトペをある程度まとめて学習するのに、中級段階がふさわしいと思われる。

能力試験出題基準に取り上げられているオノマトペのうち、特に、「ＣＶＱＣＶリ」などのオノマトペで、語基が共通のほかの型のオノマトペが存在しないものは、一般語彙として扱ってもよいのではないかと考えているが、それ以外のものは、新出語彙として、ただ、学習者がその意味を学ぶだけではなく、オノマトペの音感覚やオノマトペの型、使い方、なども中級の段階で整理して学ぶことが必要だと思う。

本稿で取り上げた教科書を見ると、オノマトペの学習では、たとえば、「笑い」を表すオノマトペや病状を表すオノマトペというように、意味が関連するオノマトペを同時に学習することが多く、これは、オノマトペ同士が持つわずかな意味の違いを理解することにつながり、効果的だと思う。この場合に、さらに、オノマトペの型のもつ特徴と使い方や音感覚についても学習者が学ぶことができると、新しいオノマトペに出会ったときに、理解が容易になるのではないだろうか。

オノマトペの型については、少なくとも、能力試験出題基準のオノマトペの型、つまり、「いらいら」のような「２拍の語基を重ねた畳語」、「あっさり」のような「ＣＶＱＣＶリ」、「ぴたり」のような「ＣＶＣＶリ」、「さっ（と）」のような「２拍で２拍目が促音のもの」や間に促音を持つものや撥音で終わるものなどを取り上げる必要があるだろう。また、同じ語基を共通に持つ型の違うオノマトペが同時に取り上げられれば、型の持つ特徴を学ぶことができる。たとえば、畳語であれば、繰り返しや連続を表わし、語尾が「リ」のものであれば、終了やまとまり、確実性などを表わし、語尾が促音のものは瞬時に動いたり瞬時に止まったりといった意味を表わすなどである。

型によって、必ず「と」を伴って用いられるもの（たとえば「さっ」）や、「と」を伴っても伴わなくてもよいもの（たとえば「ゆっくり」）、「と」を伴わないもの（たとえば頻度を表わす場合の「ちょいちょい」）を整理して示すことも必要である。２拍のオノマトペで２拍目が促音のもの（たとえば「さっ」）などは、辞典などの見出し語として「と」を伴っているばあいもあれば、「と」を伴わな

い場合もあるからである。

また、「する動詞」として用いられるオノマトペ(たとえば「いらいら(する)」)の数は多いが、どのオノマトペが「する動詞」になるかを知ることも必要だろう。

な形容詞として用いられるオノマトペ（たとえば「ぶかぶか（な)」「ぶかぶか（だ)」）や名詞として用いられるオノマトペ（たとえば「いらいらが募る」のように使われる場合の「いらいら」）もあるが、これらについては、転用だと理解できれば、問題はなく、中級段階で特に学習しなければならないとは思わない。

さらに、音感覚についても学習者が理解できるようにしたい。オノマトペは、恣意的な語ではなく、日本語話者の持つ音感覚と結びついた語であり、清音と濁音と半濁音の音感覚の比較や、サ行音といったある行の音から受ける感覚、また、拗音から受ける感覚などに特徴がある。「とんとん」と「どんどん」を比べると、濁音のオノマトペのほうが強く激しい。また、「さ」や「す」で始まるオノマトペは「滑らかさやスムーズさを表わしている」といわれている[4]。最近、「語感研究」[5]が話題になっているが、「発音体感」と語感の結びつきから音感覚を体感できると、学習者の理解が深まるのではないだろうか。

5．おわりに

本稿では、日本語中級レベルの教科書で学習者がどのようなオノマトペをどのように学習しているかということや、能力試験出題基準ではどのようなオノマトペが取り上げられているかということなどをみてきた。さらに、中級段階でオノマトペの何を学習したらよいかということについても考えた。今後は、本稿で述べたことを基に、中級段階の学習者を対象としたオノマトペの学習教材の作成を試みたいと考えている。

注

1）「「ＣＶＱＣＶリ」型のオノマトペ」(『長崎大学留学生センター紀要第10号』)でこの型のオノマトペについて検討した結果を述べている。対応する形態の異なるオノマトペとは、「ＣＶＣＶリ」型の促音のない３拍ものと「ＣＶＣＶ－ＣＶＣＶ」型の２拍の語基を重ねた４拍の畳語である。

2）留学生センターで開講されている中級レベルの日本語クラスは他に「中級

漢字」「中級II作文」「中級II会話」のクラスがある。

3）2005年度まではこの教材を初めから終わりまで使用していたが、2006年度は部分的に使用している。

4）田守（2002）は音によって感じる「ニュアンスの違い」を具体例を挙げながら説明しているが、「さ」と「す」で始まるオノマトペについては、「さくっ」「さらさら」「すいすい」「するする」などを例に挙げて説明している。

5）「あなたの知らない語感の力」と題して、最近話題の語感研究を活かした商品のネーミングなどで活躍している黒川伊保子氏がＮＨＫ「知るを楽しむ、日本語なるほど塾」などでも取り上げられている。黒川氏は、語感は耳で聞いて得られるというよりも、「発音体感」によるところが大きいと述べている。

参考文献

黒川伊保子（2006）「あなたの知らない語感の力」『ＮＨＫ知るを楽しむ・日本語なるほど塾』2006年2-3月号、日本放送出版会

田守育啓（2002）『オノマトペ擬音・擬態語をたのしむ』岩波書店

田守育啓、ローレンス・スコウラップ（1999）『オノマトペ―形態と意味―』くろしお出版

守山惠子（2002）「「ＣＶＱＣＶリ」型のオノマトペ」『長崎大学留学生センター紀要』第10号

（留学生センター非常勤講師）